

西粟倉小学校だより

ゆうゆうハウス訪問

三年生は毎年ゆうゆうハウスを訪問しています。今年は、昔の道具をいろいろ持って行って交流しました。

私がびっくりしたことは、他のはんが発表した「おいこ」でした。おいこは、自ぜんにやさしくて、さい後まで使うということ。古い着物をおいこにまぜてあむと、かたがいたくないそうです。また、そのおいこを燃やすとかとりせんこうになるそうです。さらに、そのはいを畑にまくと、イノシシがこなくなると聞いて、感心しました。

次に、歌を歌いました。「春の小川」と「手のひらを太陽に」を歌いました。春の小川では、おじいさん、おばあさんのやさしい顔を見られて、きてよかったなあと思いました。

長野 希恵



▶これが「おいこ」だよ。

かたたたきとプレゼントわたしをしました。私はおばあさんに「かたをたたくのがいいですか、もむのがいいですか。」ときくと、「じゃあ、もんでもらおうか。」と言ったので、もんであげました。すると、「すごく気持ちいいわあ。」と言ってくれたので、すごくうれしかったです。もみ終わって、たんぼの絵をかいた絵手紙をおばあさんの首にかけてあげたら、「絵が上手じゃなあ。」と言ってくれて、すごくうれしかったです。

次に、お年よりの方からプレゼントをもらいました。それは、つまようじでできているかこの中に花が入っている物でした。私は、(このつまようじのか、すくくこまかいなあ。)と感心しました。

「ありがとうございました。」と言って学校に帰りました。

政久 秀美

大原高校だより 岡山県スクールインターネット博最優秀賞受賞(1ページ部門)

1月15日(日)。萩原孝行君と小林直人君と居安麻衣さんが福田智文先生の引率で、岡山市のメディアコムで行われた最終審査に臨む。「岡山県スクールインターネット博1ページ部門」に大原高校は生徒全員で協力して出品していた。今回のインターネット博のテーマは「交流」。

本校は、校歌よりネーミングした「ああ我が母校大原高」。内容は、高翔祭(大原高校文化祭)を多面的に伝えるもの。大原文化協会の全面的な協力を得ての開催であり、テーマ「交流」にふさわしいものとなっており、少し自信を持っての最終審査。23作品から5作品にノミネートされており手応えも感じての参加。「ひょっとして」の期待も高まる。

この作品「ああ我が母校大原高」は、情報コースの課題研究として萩原孝行君を中心に取り組む。全員の生徒も協力。高翔祭は地域の多くの人々の惜しみない温かい心が結集の結果すばらしいものとなった。石井県知事まで見学して下さった。感謝の気持ちを込めて作成。

制作で最も苦労したのは、「交流」というテーマに合わせたの内容を選ぶこと。最初欲張っていて、

あまりに大きなことを考えすぎていたが、先生の助言で文化祭に焦点を当てた。文化祭と決定してからは、写真を選ぶくらいで、順調に作業は進んだ。渋々やり始めたが、やりだすと結構楽しかったそうです。

いよいよ、午後3時5分、最終審査の発表。息をのんで待機。

「1ページ部門最優秀賞。岡山県立大原高等学校」みんな頬が熱くなったそうです。感激いきり。副賞も多数いただいた。

今年は、大原高校の閉校の年。残念な思いばかりが募りますが、残念がってばかりもいられません。生徒は、しっかりと現在と将来を見つめ、確かな活動を続けてくれました。真摯な授業態度・活気ある部活動・高校女子駅伝岡山県予選への出場・文化祭の大成功など、最後のご褒美に「最優秀賞」がいただけた。それにしても「立派な生徒たち」です。(副校長 上原正之 2月3日記)

※受賞作品は大原高校ホームページ
(<http://www.ohara.okayama-c.ed.jp/ohara.htm>)
でご覧いただけます。